

令和 5 年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	53	学 校 名	静岡県立川根高等学校	記 載 者	中村 泰子
------	----	-------	------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
ア	基本的な生活習慣を身に付け、学校生活に積極的に取り組むとともに、自らの健康管理に留意できる生徒を育成する。	生徒アンケートの「爽やかなあいさつを心がけている」で90%以上	A	A	年度当初に生徒会が全体に呼びかけるという良き伝統。達成率が高率で成果が出ている。挨拶は基本であり良い結果。挨拶はすれ違っても、できる生徒は減ってきていると感じている。スマホ等を見ながら歩いていて、こちらからも声が掛けづらい。
		歯科検診の再受診率 60%以上	C	C	受診環境の確認が必要。年配者の後悔を伝える。食後の歯磨き。率の向上を期待する。歯科受診の積極性をもう少し生徒たちに伝えてほしい。部活動等で時間が取れなく、痛くならないと行かない。歯の健康は、生涯重要なため、虫歯・歯周病のリスクを伝え、受診率を高めてください。
イ	多様な考え・生き方を尊重し、いじめ防止を含む、他者と適切な関係を築くことができる生徒を育成する。	授業アンケート項目2-1、2-2、3-3が全て80%以上。	A	A	目標を達成しており、成果が出ている。学校内のいじめに関してはわからない。
		毎学期の全校集会でいじめ防止につながる人権教育の実施。	B	B	自己肯定感の低さの裏返しの面もあるので、『自信』を持たせることも大切。起きた事象に対してフォローをしっかりと行っている。SNSでの問題等は、本人たちがさほど危機感がないのが怖い。UPした瞬間、世界とつながっていることを自覚できていない場合があるかもしれない。
		生徒アンケートの「自分に良いところがある」で80%以上	B	B	自己肯定感の低さは、小中の時から。根底にあるものを見直す。評価が難しい項目であるが、傾向としては良いと思われる。コミュニケーション力が向上したことで対応力が身につき、自信がついていくものではないか。生徒をほめることで、自己肯定感

様式第 5 号

					を高めていただき、自信を持って 学生生活を過ごして頂きたい。
ウ	目標を自ら定め、その実現 のために学習習慣の確立と 主体的・対話的で深い学び の定着に取り組む生徒を育 成する。	テスト勉強 1 日 150 分以 上。 授業アンケート項目 1 が 80%以上。	A	A	勉強は時間で判断するのは難し いことではあるが、向上心の表れ と評価したい。 毎日 150 分以上の状態が続けば、 希望している進路につながると 思う。
		基礎力診断テスト GTZ (学力到達度ゾーン) の D2 以上の生徒 60%以上	A	A	進学を目的としない生徒には十 分だと思う。就職してから学ぶ習 慣を継続できるかが大事。
		進研模試の偏差値(7 月 /11 月)が上がった生徒 30%以上	A	A	3 年生については成果が出てい る模様。 2・3 年前からテストの内容が変 わってきていると聞いている。問 の内容を理解するのが一番の問 題。 1・2 年生学習習慣を定着させ、 目標を意識させることで、進学、 就職の志望が叶うことを期待す る。
		各教員が AL 型授業をで きる限り実施する。	A	A	すべての教科で実施しているこ とは良いことだと思う。 少人数な学校に合っていると考 えます。生徒が積極的に授業に取 組める。
エ	授業、生徒会活動、部活動 に積極的に参加し、課題解 決に向け、粘り強く取り組 む生徒を育成する。	生徒アンケートでの「自 らの課題が分かっている」回答が 80%以上。	A	A	良い結果だと思われる。 生徒自ら課題の認識・課題解決の 導き方・課題解決は将来に役立つ と思われる。
		生徒アンケートの「部活 動、行事、生徒会活動に 積極的に参加した」で 90%以上	B	A	ダウンサイジングは社会の共通 課題。これまで在ったからにとら われない。持続可能な部活動を考 えていきたい。 目標はわずかに達成できていな いが良い結果である。 今しかできないことを教師と連 携してやれることの楽しみは、お 互いの信頼関係を育み、共通認識 から普段の生活面に良い影響が 出ると思う。また、卒業してから の生徒共通の思い出になる。 部活動、地域行事等に積極的に参 加することで、生徒のコミュニケ ーション力や表現力が高まるこ とを期待する。
オ	連携型中高一貫教育、探究 学習等を充実させ、生徒の	連携中学生徒・保護者へ の広報機会 4 回以上。	A	A	地元の生徒、保護者に関心を持っ てほしい。入学者増を期待。

様式第 5 号

	教育活動が推進される環境を整える。	生徒アンケート（自己評価）で「探究する力」2.60 以上 （令和 4 年度 2.57）	B	B	対人構築力がベースにあるとの分析は素晴らしい。一方、知的好奇心を高める両輪で攻めるとよい。 孤立する生徒をなくしていただきたい。学校時間外における、地域の人との関わりに地元住民として関心がある。 情報過多の世間に流されずに、自分で調べて、自分で考え悩む学習は将来役立つと思う。
		生徒アンケート（川根留学生）で「川根のことを自分なりに説明できる」肯定的回答 70%以上	B	B	地域のイベント等に参加する機会に、地元生と留学生のペア組みはどうか？ 川根高校に入学した＝川根地区を知る機会にはならないのだと思う。特徴ある川根高校の存在を入学後に知ってもらいたい。面倒でも、地域の行事にできれば教師とともに参加するなど。 「地生学」は社会を知り、適応力を育める大変良い科目だと思う。
力	困難を抱える生徒への支援や防災に積極的に取り組むとともに地域家庭と連携し安全な教育環境を整え、職員にも働きやすい学校作りを行う。	生徒アンケート（自己評価）で「多様性」3.0 以上（令和 4 年度 2.91）	A	A	協力体制を構築したい。町全体で支える体制の確立。
		地域防災訓練又は代替えの活動に最低 1 回は参加する。生徒に対しての防災アンケートから、防災についての意識が昨年よりも高まった 90%以上。	B	A	台風 15 号被災時には、町民の団結は他地域との比較では、すごかった。ポテンシャルは「A」だと感じている。 防災意識の向上について地道な活動が必要となるため、今後も取組をお願いしたい。率的には、十分な結果である。 7 月の区内清掃活動、9・12 月防災訓練には積極的に参加してくれている。役割を忠実にこなす行動が見られた。 地震や台風に備えて、災害を自分事として捉えて、主体的に訓練に参加していただきたい。
		施設・設備に関する職員安全衛生委員会の提言の実施率 90%以上 施設・設備に起因した事故の発生数 0 件	A	A	生徒に安全点検をさせるのも一手か。かつては、生徒の案でトイレの改修をした例もある。 事故のないことは成果である。 築 40 年経過している学校が抱えている問題だと思う。
		保護者アンケートで学校ホームページを見ているが 70%以上。保護者の P T A 行事に参加し	B	B	留学生の保護者だけではなく、全ての方が H P だけでなく、子供たちから直接声を聞いて、学校活動に目を向けてほしい。

様式第 5 号

		た回数が 1 人 1 回以上。			留学生が 6 割近くになり、対応が大変だと思う。来年度は一学年が 40 人クラスとなった場合、運営方法はどう変わるのか。留学生の増加で地域の保護者の負担が大きくなる。 保護者がリモートで参加できる行事であれば、参加率が上がるかもしれない。
		セキュリティセット時刻短縮一昨年度比 10 分	C	C	学校・生徒の多様性に対する先生方の常なる努力が感じられます。運営協議会等の連絡、資料はメール送付とし、ペーパーレス化を進めていただいてよいと思う。